

ア・レ・からというもの  
申鶴さんに求められる  
日々は続いたが

そのだな…

今日もですか!?

大丈夫だ…

今日は主を  
気持ちよくするだけだ

なにが大丈夫なんだ…

それ：留雲借風真君特製の  
精力剤だよ…

ダメか…

主よ…??

断れるわけなかった



師匠が  
新しいものを  
作ってくれたのだ



アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

主よ……どうだ……？  
興奮……するか……？



クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

ツツツ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

クニクニ

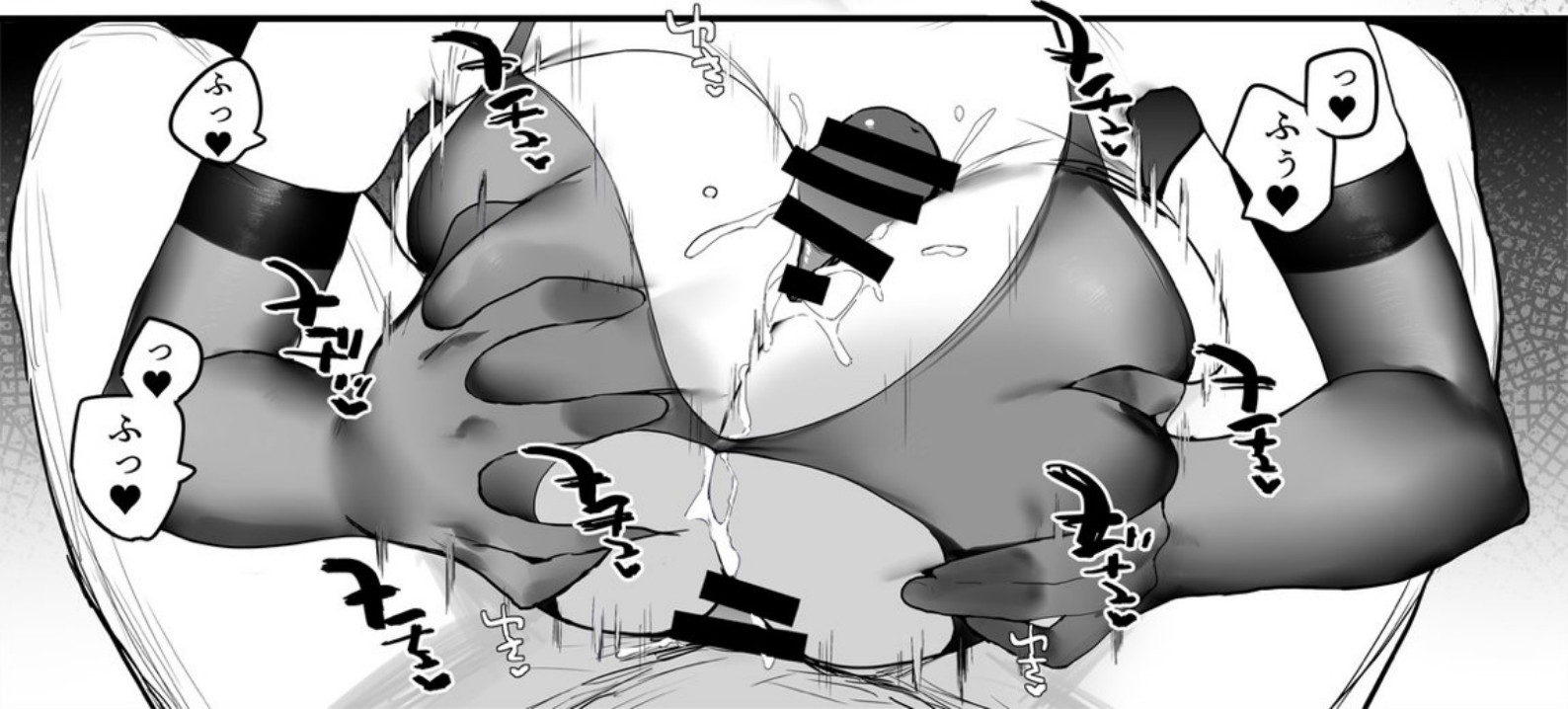
クニクニ

クニクニ



今日は我が主を  
気持ちよくする...♡

だから  
じっとしていてくれ♡





っ♡んっ♡

ヒッ

ヒッ

ヒッ

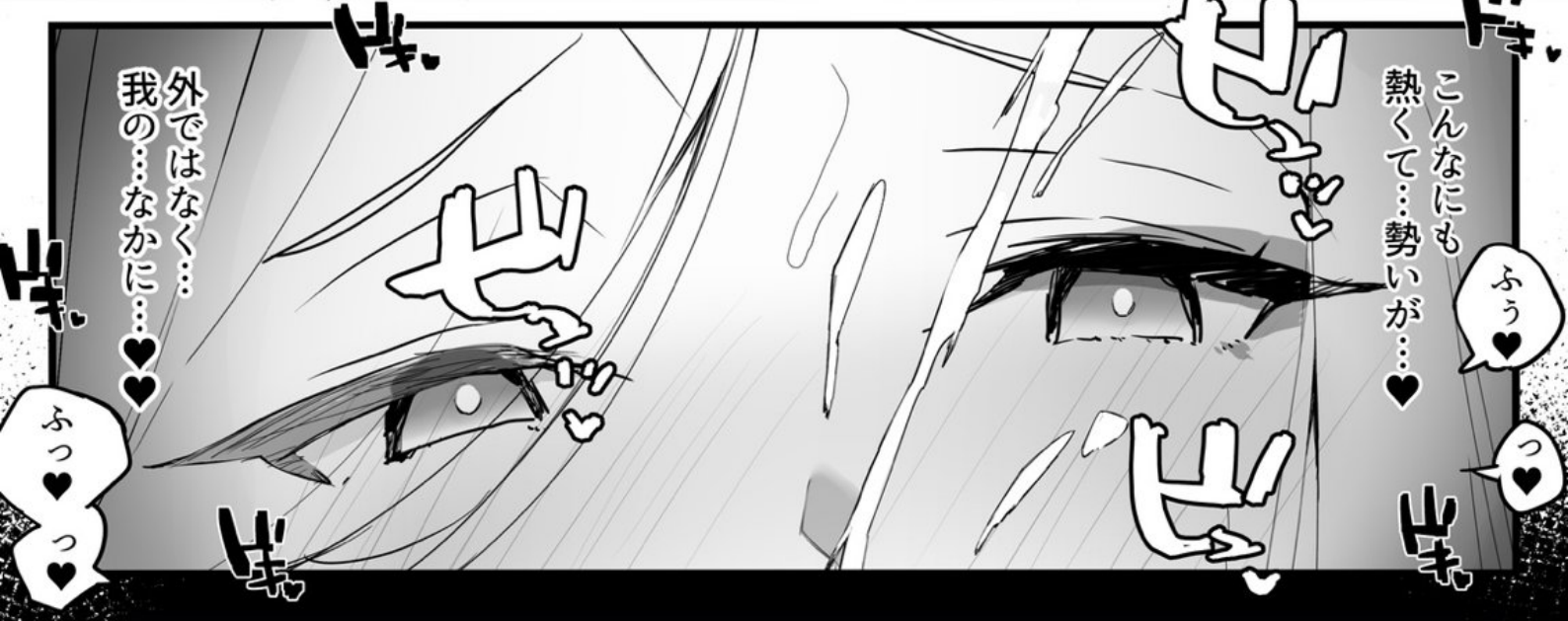
ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ

ヒッ



こんなにも熱くて…勢いが…♡

ふう♡

っ♡

ヒッ

ヒッ

外ではなく…私の…なかに…♡

ふう♡

その…先程はああ言ったが…  
今度は我のなかに…♡

んっ♡

やっぱり  
こうなった…

主の子種を  
放つてはくれないか…♡♡

糸引いてるね…

ほんとに中出しして  
ほしくて堪らないんだね

そっだ…頼む…  
主の子種を…♡

ト…♡











アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ



この後も申鶴さんが  
満足するまで  
イチャイチャした